

郷土を知る
むかしむかし

昔々の そお市

第74回



八ヶ代橋 架橋100年

生涯学習課 文化財・市史編纂室 ☎ 0986-76-8873

市

道北保馬立線の横市川には、昭和51年3月架橋の八ヶ代橋（橋長32m、幅6m）があります。

普段の通行時には気付きませんが、実はその下には、コンクリートと石造りが融合したアーチ式石橋『八ヶ代橋』が現存しています。こちらは大正15年（一九二六）の完成で、今年で架橋100年の節目を迎えます。

この橋は、壁にアーチ式の開口部を持つ珍しい造りで、橋全体の重量の軽量化と洪水対策を図ったものとされます。また県内で最も扁平な石橋でもあり、その姿は、中国最古の石橋趙州橋（安濟橋）を彷彿とさせます。そしてこの石橋の上に、現在の桁橋がありますが、元の橋に負荷を掛けない（空間のある）造りであり、文化財保護の観点からも特長ある橋と言えます。また八ヶ代橋のすぐそばには石切り場の跡も残っています。

昔の八ヶ代橋は一本橋で危険な橋でした。八ヶ代にあった学校が、通山校と合併し、馬立に新しい学校（現在の財部南小学校）が完成してからは、子どもの通学に危険なため、安全な橋を建設することになりました。当時は地域住民の負担も大きく、共有地などを売って建設費用に充てるなど苦労もあり



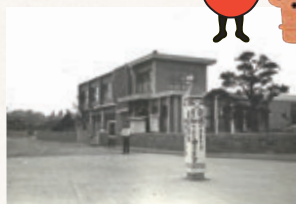
八ヶ代橋

りましたが、大正14年3月起工、翌年7月竣工。そして同年10月19日に渡り初め式が行われました。
地区の責任者は中原幸、工事は永徳正太郎（伊敷の石工）が担いました。永徳氏の孫の話によると、永徳家は中国に滞在していた時期があり、趙州橋も見ていたそうです。もしかしたら、八ヶ代橋設計時のヒントにしたのかもしれない。
なお現在の橋が架かる以前の八ヶ代橋の写真を探しています。もし、お持ちの方がいらっしゃいましたらご連絡ください。

曾於市史編さん情報局



高見堂の踏切(昭和30年代)



末吉警察署(昭和38年頃)

昭和の街並みが分かる写真をお持ちの方は、情報をお寄せください。



【アクセス】

※現地に看板あり。橋の西側から下に降りられます。